

# 地学協働

北海道の地域と学校の連携・協働を応援する広報誌 No. 43

## TOPIC

1. 地学協働と本広報誌について
2. 道内のCS導入状況等
3. 北海道MA+CHプロジェクト
4. 子どもの読書活動推進コーナー

# 4月

## 1 地学協働と本広報誌について

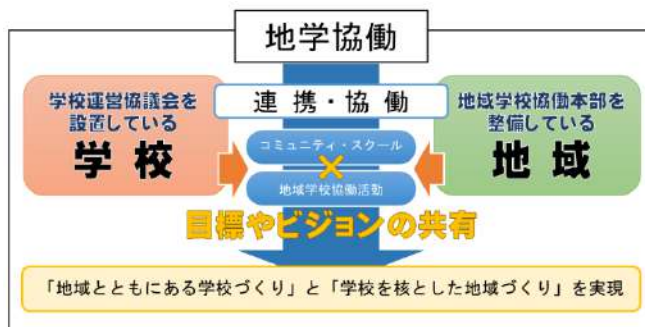
北海道教育委員会（以下、「道教委」という。）では、令和4年（2022年）10月に広報誌『地学協働』第1号を発行し、今回で第43号となりました。今年度も道内における地学協働の情報を発信していきます。

道教委では、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動を「地学協働」と称し、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働する活動を積極的に展開し、双方のWin-Winの関係構築を目指していきます。

道内では、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるため、各地で地域の特色を生かした多様な地学協働の取組が実践されています。

本誌は、月に1回発行し、道内の地学協働の普及・啓発を図りたいと考えています。つきましては、職場や地域において、地学協働を普及・推進するための参考資料としてご活用ください。

### 北海道における「地学協働」のイメージ



参照：道教委社会教育課ホームページ  
二次元コードから道教委社会教育課「地学協働」のページをご覧ください。

地学協働とは… 地学協働は、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるため、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動であり、地域と学校の連携・協働の必要性については、次の6点があげられます。

### ① これからの時代を生き抜く力の育成という観点から

地域住民やNPOなど様々な専門知識・能力をもった地域人材が関わることで、実社会に裏打ちされた幅広い知識・能力を子どもたちに育成することができます。

### ④ 地域における社会的な教育基盤の構築という観点から

地域に住む人々が主体的・自主的に子どもたちの学びに関わり、地域住民の学びを起点に、地域の教育力を向上させ、ふるさとに根付く子どもたちを育て、地域の振興・創生につなげることができます。

### ② 地域に信頼される学校づくりという観点から

地域住民や保護者等が学校運営に対する理解を深め、積極的に参画することで、学校をより良いものにしていこうという当事者意識を高めることができます。

### ⑤ 社会全体で、子どもたちを守り、安心して子育てできる環境を整備するという観点から

個人や個々の機関だけでは、対応が困難な課題についても、学校と地域の連携・協働により保護者や子どもに必要な支援を行うことで、家庭や子どもの変化をもたらすことができます。

### ③ 地域住民の主体的な意識への転換という観点から

地域住民が「学び」を通じて、新たな関係を作りながら、自ら生活する地域を創っていくという地域住民の「主体的な意識」に転換していくことができます。

### ⑥ 学校と地域の「パートナーとしての連携・協働関係」への発展のため

①～⑤の観点を踏まえ、学校と地域は、お互いの役割を認識しつつ、パートナーとして相互に連携・協働していくことを通じて、地域総がかりでの教育の実現を図っていく必要があります。

「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）」（平成27年12月21日中央教育審議会）第1章第1節2を参照

詳しい情報は文部科学省「学校と地域でつくる学びの未来」のホームページの関連資料やパンフレットをご参照ください。左の二次元コードからホームページが閲覧できます。



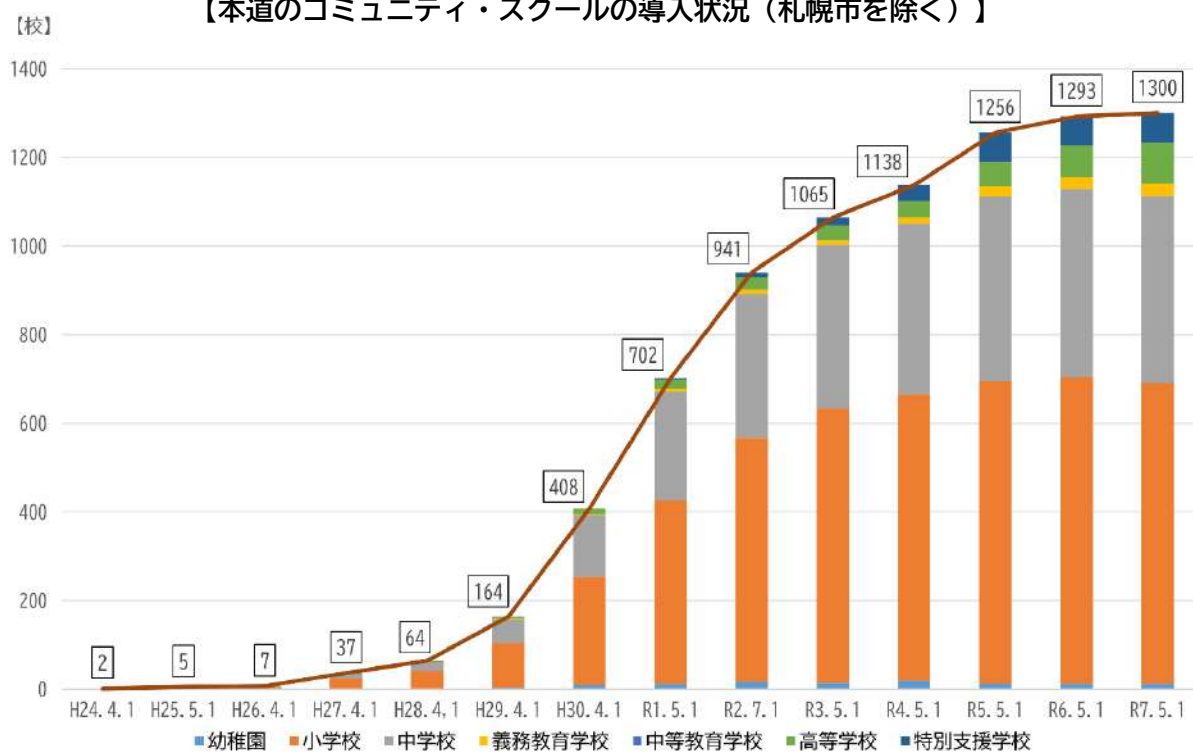
急激な社会の変化に伴い、学校と地域を取り巻く課題はますます複雑化、多様化しています。

このような状況の中、各地域において、子どもたちに、学校だけでは得られない知識・経験・能力など、これからの時代を生き抜く力を育成すること、地域住民に、自ら地域を創っていくという「主体的な意識」への転換を図ることが求められており、国や道では、学校と地域の関係者で目標やビジョンを共有し、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進することで、「**地域とともにある学校づくり**」と「**学校を核とした地域づくり**」を併せて実現することを目指しています。

このような中、令和7年（2025年）5月1日現在の北海道の公立学校におけるコミュニティ・スクールの導入状況は、グラフのとおり、1,300校（88.8%）となっており、着実に導入が進められています。

一方、地域学校協働本部の整備状況は、910校（62.2%）であり、引き続きコミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進できるよう、体制を整えていくことが大切です。

【本道のコミュニティ・スクールの導入状況（札幌市を除く）】



【地域学校協働本部の整備状況（札幌市を除く）】

校種	学校数	カバー校数	カバー率	R6
全て	1464	910	62.2%	55.0%
小中義務のみ	1162	832	71.6%	63.4%
幼稚園	25	7	28.0%	34.6%
小学校	701	508	72.5%	64.0%
中学校	431	306	71.0%	63.3%
義務教育学校	30	18	60.0%	48.1%
高等学校	210	71	33.8%	28.2%
中等教育学校	1	0	0.0%	0.0%
特別支援学校	66	0	0.0%	0.0%

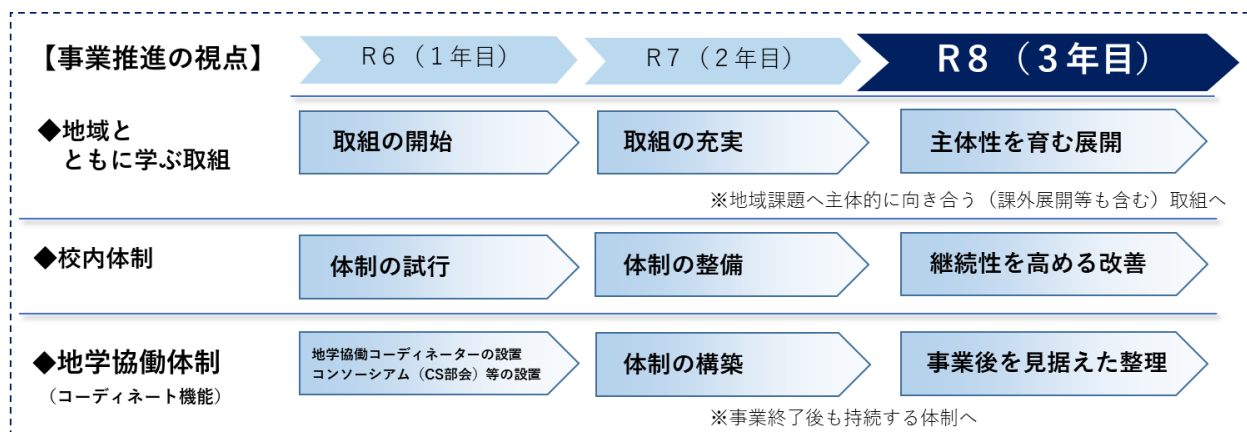
道教委では、令和6年度から各管内に1校の道立高校を指定し、北海道MA+CHプロジェクト（地学協働まちづくり推進事業）を実施しており、3年目を迎えています。

## 北海道MA+CHプロジェクト 3年間の展開イメージ

趣旨

地域と学校がともに学ぶ取組をととして、地域と学校が連携・協働する体制を構築し、持続可能なまちづくりに資する本道の未来を創る人材を育成する。

- (1) 急激に変化する社会に主体的に向き合い、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人材を育成する。
- (2) 地域と学校がともに当事者意識を持ち、地域課題に向き合い、その解決を目指すための地学協働を展開するため、地域に精通した地学協働コーディネーターを配置し、地学協働体制を構築する。



## これまでの取組や今後の展望（指定校の様々な工夫やチャレンジ）

### ◆ 地域とともに学ぶ取組の充実 ～生徒の主体性を育む展開～

- ・約430名（112グループ）が、58か所のフィールドワークに挑戦
- ・地域のボランティア活動や教科における企業連携の取組を実施
- ・地域についての学びを小学生に指導し、地域の価値を次世代へ伝える取組に挑戦
- ・総合的な探究の時間を深める「放課後探究部」を設立し、地域課題を図る取組を展開
- ・地域の大学生を活用し「高校生探究推進組織」を新設して取組を進める予定

### ◆ 校内体制の整備・地学協働体制の構築 ～継続性を高める改善・整理～

- ・校内に、地学協働コーディネーターを含む探究委員会を設置
- ・強制的でなく地域の人が集まりやすい、緩やかなコンソーシアムを組織
- ・総合的な探究の時間に、コンソーシアムメンバーや地域住民が生徒の学習に伴走
- ・地学協働コーディネーターが学校運営協議会委員を兼任
- ・全教員が参加する学校運営協議会のワーキンググループを設置
- ・学校運営協議会に探究部会があり、事業終了後は本プロジェクトを引き継ぐ予定



## 北海道MA+CHプロジェクト指定校

管内	指定校	管内	指定校	管内	指定校
空知	月形高校	渡島	松前高校	オホーツク	清里高校
石狩	恵庭北高校	檜山	上ノ国高校	十勝	音更高校
後志	小樽桜陽高校	上川	美瑛高校	釧路	弟子屈高校
胆振	追分高校	留萌	天塩高校	根室	根室高校
日高	富川高校	宗谷	枝幸高校		

## 4 子どもの読書活動推進コーナー

読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠かせないものです。子どもの読書活動の推進に当たっては、家庭、地域、学校等が中心となり、社会全体で取り組む必要があります。

### 【活動報告】図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書のまちづくり推進事業

文部科学省では「図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書のまちづくり推進事業」を行っており、令和7年度は全国から9つの自治体や団体が実施先となりました。北海道からは釧路市教育委員会と株式会社遊喜（土別市）が応募した提案が選ばれ、読書活動推進のために様々な事業を行いました。1年間の取組をまとめた事例集・報告書が発行されましたので、ぜひご覧ください。

#### ■釧路市教育委員会

「読書のまちづくり推進事業 事例集」

[https://www.city.kushiro.lg.jp/bunkasports/shoug\\_aigakushuu/1005668/1018219.html](https://www.city.kushiro.lg.jp/bunkasports/shoug_aigakushuu/1005668/1018219.html)



#### ■しべつ読書でつなぐまちづくり協議会

「しべつ読書でつなぐまちづくり事業報告書」

[https://www.city.shibetsu.lg.jp/soshikikarasagasu/to\\_shokan/6740.html](https://www.city.shibetsu.lg.jp/soshikikarasagasu/to_shokan/6740.html)



### 【会議報告】図書館は「読む→学ぶ→集う」の総合力で地域を創る

図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議 「図書館が拓く未来の学びと地域社会（報告書）」

令和6年（2024年）12月から1年余りをかけて、図書館・学校図書館の運営の充実に向けた専門家による会議が行われ、令和8年（2026年）3月に報告書がまとめられました。

図書館・学校図書館の今後の機能・役割として、居心地の良い空間であること、住民や子どもたちの学習を支援する場となることが期待されています。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/mext\\_01613.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_01613.html)



- 【内容】
1. 地域の「ハブ」、学校の「中心」を担う図書館を目指して
  2. 全ての人に開かれた図書館サービスの構築に向けた方策
    - ・ユニバーサルアクセスの実現に向けて
    - ・対話と活動による地域の連携・協働の一層の推進
    - ・図書館・学校図書館を支える人材の充実
  3. 図書館・学校図書館に係る制度・基準の見直し



### 学校図書館課題別講習「入門講座」

今年初めて学校図書館の仕事を担当する方を  
おもな対象に、「まずはこれだけ！」を学ぶ入門  
講座を開講します。

日 時：5月20日（水）14:15～15:00

方 法：オンライン（Zoom）

詳しくは実施要項をご覧ください。→

<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssg/gakkoutoshokan.html>



※公立図書館の新任職員の方は、道立図書館で開催する  
「全道図書館新任職員研修会」にぜひご参加ください。

### 子どもの読書活動応援動画

YouTubeの社会教育課チャンネルでは、道内で活  
躍するプロスポーツチームの選手やスタッフの皆さんが、影響を受けた本や好きな本、幼児から高校生  
までのおすすめ本を紹介しています。

4月23日から5月12日は「こどもの読書週間」で  
す。ご家庭での読書のきっかけづくりに、ぜひご活  
用ください。

<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssg/kodomonodokusyooouen.html>



題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE!』」

（公益社団法人 北海道観光機構）のフォトライブラリーからご提供いただいております。

● 掲載サイト <https://www.visit-hokkaido.jp/>

